

古河市横断歩道橋長寿命化修繕計画

令和8年5月

古河市都市建設部道路河川課

1. 長寿命化修繕計画の背景・目的

1)背景

古河市が管理する横断歩道橋は、平成25年建設の名崎工業団地南歩道橋と昭和45年建設の三小前歩道橋の2橋である。

特に三小前歩道橋は橋齢50年を超える高齢化橋梁であり、経年により健全性が低下するほか第三者被害の発生が懸念される。

そのため従来の事後保全型の維持管理を継続した場合、大規模修繕や架け替えのための費用が一時的に集中し、多大な経費が財政負担となり適切な維持管理の継続が困難となるおそれがある。

2)目的

このような背景のもと、限られた財源の中で効率的に横断歩道橋を維持する取り組みが不可欠である。

そのため従来の事後保全型から長寿命化修繕計画に基づく予防保全型へと維持管理方法の転換を図る。これにより維持管理に係る費用の縮減を図るとともに、横断歩道橋の安全性・信頼性を確保することを目的とする。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	一級市道 に位置する 橋梁	二級市道 に位置する 橋梁	鉄道・高速 道路を跨ぐ 橋梁	左記以外 の橋梁	合計
全管理橋梁数	2	0	0	0	2
うち計画の対象橋梁数	2	0	0	0	2
うちこれまでの計画策定橋梁数	0	0	0	0	0
うち令和2年度計画策定橋梁数	2	0	0	0	2

○長寿命化修繕計画の対象：古河市が管理する横断歩道橋全橋を対象とする。

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1)健全度の把握の基本的な方針

定期点検や日常的な維持管理により、橋梁の損傷を早期に発見するとともに健全度を把握する。

2)日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、道路パトロールや清掃を継続的に実施する。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

維持管理方法を「予防保全型」へ転換することにより、修繕・架替えに係る事業費の大規模化及び高コスト化を回避し、ライフサイクルコストの縮減ならびに予算の平準化を図る。

集約化・撤去対象の検討を行った結果、住民の生活に密着して利用され、代替性も無く重要な路線であり、小学校も近くにある等、社会活動等に影響を与えるため集約化・撤去を行うことは困難である。

今後、老朽化に伴い架替えの必要が生じた場合等には周辺の状況や施設の利用状況も踏まえて、再度検討を行い、コスト縮減に努める。

5. 新技術等の活用方針

令和15年度までに点検及び修繕工事等において、新技術等の活用の検討を行い、有効な新技術を積極的に採用し、1百万円程度の費用縮減や点検の効率化に努める。

6. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

凡例： 対策を実施すべき期間を示す。

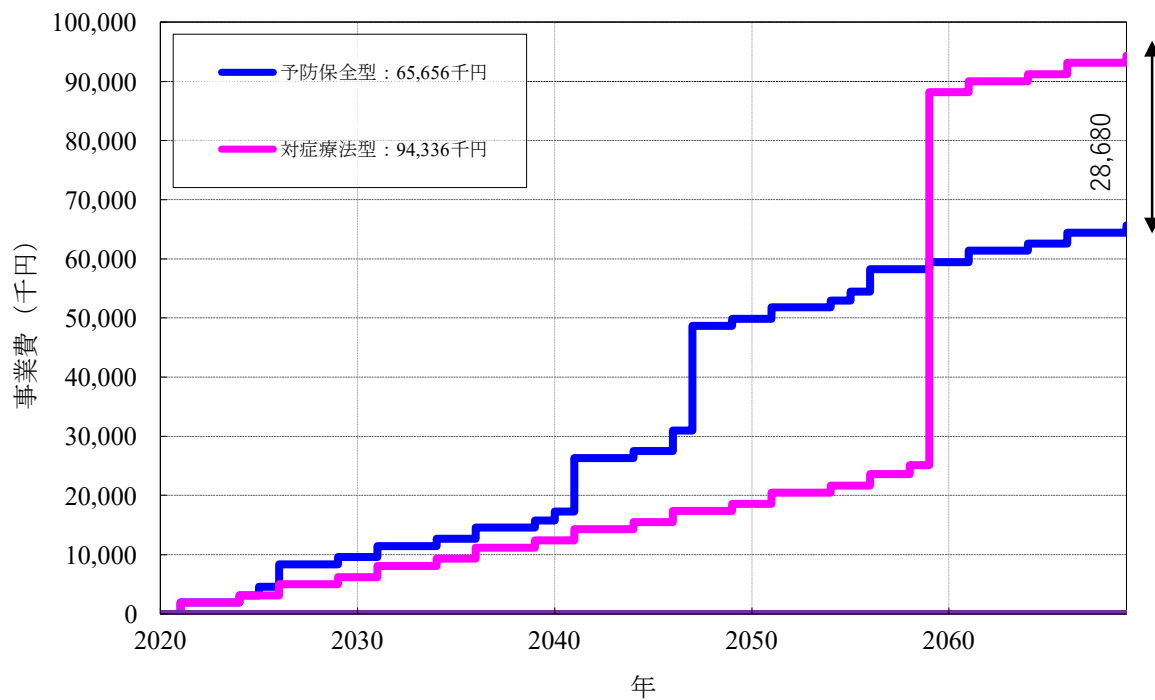
橋梁名	道路種別	路線名	橋長(m)	架設年度	供用年数	最新点検年次	直近点検結果	対策の内容・時期									
								R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
名崎工業団地南歩道橋	市道	三和0134号線	71.45	2013	13	2022	Ⅱ				定期点検					定期点検	
三小前歩道橋	市道	I-1号線	13.4	1970	56	2024	Ⅱ	定期点検		塗装修繕			定期点検				
今後の修繕・架替え事業費(百万円)								1.2		2.0	1.9		1.2			1.9	

7. 長寿命化修繕計画による効果

計画対象橋梁全体で、従来型の対処療法型では今後50年間で約9,400万円の維持管理費用が見込まれる。一方予防保全型では約6,500万円となり、約2,900万円のコスト削減が期待できる。

シナリオごとの累計事業費用の比較

2020～2069(50年間)



8. 計画策定担当部署

古河市 都市建設部 道路河川課 TEL 0280-76-1511(代)